向陽新聞

発行所
高知市春野町97
土佐高等学校新聞部
編集人 大町玄
發行人 大原讓

新生日本の出發に當って

自主性をもって責任ある行動を

大嶋校長メッセージ

祖国日本は昭和二十七年四月二十八日午後十時半をもって昭和二十年八月十五日ポツダム宣言受諾以来、七年間にわたる占領に終止符をうち新たに独立国家として新生の途についた。過去七年間あらゆる艱難辛苦にうち勝ち、祖国日本再建のため一歩〳〵築いた努力がこゝに実を結び自主権を獲得、世界の国々に伍してゆくことになったが、日本国民特に私達学生は、独立の一歩をふみだした祖国に対して、どのような態度でのぞむべきか大嶋校長先生は講和発効にあたり、独立を記念すると共に、今後の学生のあり方について、本紙につぎのようなメッセージをよせられた。

昭和二十年九月二日東京湾ミズリー号の甲板上に於て敗戦日本の全権として重光外相が所謂ポツダム宣言を受諾し、未だ曽て敗戦の経験のない三千年の歴史を誇った我が日本が米国始め連合国の前に無条件降伏を誓って遂に之に屈して以来、茲に六年八ヶ月を経過した本年四月二十八日は講和条約の効力が発生した新生日本にとって誠に記念すべき日であることを国民の一人々々が強く心に銘記せねばならないのであります。即ち六年八ヶ月という長い占領下から解放されて独立日本として出発の日を迎えたのであるから、国民の全体は心から歓喜に満たないものはない筈であるが長い占領治下にあった八千万の同胞の中には、この奮起すべき日に左程関心を持たないものや遺憾ながら全く無関心の者もないではないことに思いをいたすとき、新生日本の前途に一抹の不安をさえ覚えざるを得ないのであります。が兎に角にも日本をめぐる四囲の情勢や完全独立には尚幾多未解決の難問題を残しておるのであるが、過去の誤れる軍国主義がもたらした敗戦という憂目の下の占領という重圧はなくなったのである。

政治、経済、産業等の部面はさておき教育界だけを眺めても占領政策の下に於て日本の制度は非常に改変せられたことは周知の事実である。即ち教育の民主化に伴う六三三制の実施等、教育委員会制度教育の機会均等、更に教育内容に於ては各教科を通しての指導法に至るまで更に民主々義のもたらす自由と個人の尊厳とによって学生々徒は一時全く学校から解放せられたかの感さえあったのである。

此の複雑多岐にわたる教育制度はその衝に当る日本人の手によって適当に改められるであろうが、個人の尊厳を主張するの余り自由の真意義に徹せず責任の所在を忘れ学生としての本分が何を措いても勉強と修養にあることを考えず徒らに無軌道振りを発揮してきたことは、占領治下にあって米国の教えた自由を穿き違えた結果と見るも何等異論はあるまい。他校は兎も角としてこれを我が校について見るも、諸君や諸君の先輩の中に自由についての行き過ぎがあって特に本校が誇る勉学を怠りたゞ漫然として無気力、無責任で日を過し今は悔を残した学生のあることは見逃してはならない。然し学校側としても占領治下にあっては例えば生徒の容姿などについては自由放任を指令されていたので指導が手緩るかったことは事実で此のようなことは生徒指導のあらゆる面に現れて居ったことも争われないのであるが、今後諸君自らの手によってどの程度自由を取り入れるかを判断すると同時に学校側としては今後諸君を如何ように指導することが日本に適した民主教育であるかを研究し、諸君の前途を誤らせないよう方向付ける責任を痛感して居るのである。兎に角自主権を回復した独立国家としての新生日本の多難な前途に思いをいたし一意専心修養に邁進するよう念願してやまない次第である。

東京に支局

新聞部では、このたび東京支局を設けました。もと本校新聞部の幹部として活躍され今春大学へ入学された三君を支局記者とし東京同窓会の動き、大学に関するニュースなどで本紙をかざることにしました。大学生という自由な身をもって集め、本紙に寄せられる有益で見逃すことのできない記事に御期待下さい。

東京支局記者
主任 山崎和孝（東大）
岩谷清水（早大）
岡林幹雄（一橋大）

長髪問題おあずけ

第2回八校生徒部會

土佐女子、城東、商業、工業、丸の内、小津、追手前、本校の八校生徒部会第二回会議は去月三十日本校生徒部室で行なわれた。約二十名の先生方が集り各校の意見を検討した結果、校外監督について次のようなことを決定した。

一、ダンスホール立入禁止、各校生徒部が協力して生徒を指導すること。

二、鏡川の貸ボートは日没以後禁止する。

三、汽車、電車等の乗為等の中では老人小人をいたわり学生らしい態度でふるまうこと。

四、生徒が質屋にいくのは最近の警察の調査によると多数の人が利用しているがこれも学生らしい行いとはいえないので、これも禁止する。

四、通学生に比べて下宿生の生活態度がおとるので各自指導する。

五、長髪、履物の件は各校まちまちであるが本校としては各自の自覚をまつ。

六、体育大会応援等の場合生徒五十名に一人の監督者をつけること。

主張

新制度完成とオールパス

昨年度卒業生即ち本年三月に卒業した者の大学入学状況をみると、その合格者の少ないことに気がつく。特に東京の一流校への合格率は、その悪いこと甚しい。

本年東京大学を受験した細木大麓くんから校長先生への手紙によれば、他の高校、例えば日比谷高などの東京の一流高校でも、現役のものは殆んど不合格で、予備校その他の浪人組が多くパスしているとのことである。これについて校長先生は、これは現在の高校生は高校は卒業しても、今一歩勉強しなければ、大学を受験する資格はないということを意味している。これではいけない。他の高校はいざ知らず、いやしくも本校の卒業生は、一たび大学受験を志した以上は、全員合格、オールパスの目標でやらなければいけない。そしてまた全員パスしなければならない。講和条約が批准され、日本が新しく出発するのとあたかも時を同じくして、本校は本年より新制中学、新制高校の新制度が完成するのであるから、この際本校の名誉を傷つけないよう、全校生徒がよく心をひきしめて、大学受験にはオールパス、スポーツには無敵とまでになるよう努力してもらわなければならぬ、と始業式の壇上で全校生徒に語られた。

では、全員合格するにはどうすればよいか。どんな勉強をすればよいか。という問題が当然考えられる。本年度大学入学の不振について今後如何なる策を考えるかとの問に対し、ある先生は、教え方がたるんだわけではないから別に対策は考えないと答えられた。その通りだと思う。先生が悪いのではない。自分が悪いのだ。新学年が始ると共に、大阪のほうに転任されることになった公文先生は、本校を去られるに当って全校生徒に、真剣にやってもらいたいと強く要望された。実際勉強を真剣にやらずに何が大学受験だといゝたい。いゝかげんな勉強をしておいて、試験が一月、二月の後にせまった頃になってはじめて問題集や模擬試験集などを狂人のようにやり始める。なる程そこらへんになると、もう真剣以上のものだろうが、それは、真剣は真剣でも短い間パッと燃えてすぐ消えるマッチの火のようなものであって、それで真剣にやったというのは少々無理である。毎日々々、その日その日を真剣に熱心にやらなければ意味がない。また公文先生は、勉強するのが面白いようにならねばならないともいわれた。そも〳〵勉強が面白くないというのは、何が原因しているのであろうか。勉強が出来ないというのがその第一の原因になっているものが多いと思う。これは、本校の場合は別として、他の本県の公立高等学校は全部無試験である。無試験であればそれだけ優秀でない者が多いということはいうまでもない。優秀でない者が多ければ、授業の程度を下げることになろう。そうすれば一部の優秀なものは、授業にたいくつして、自然に真剣さが薄れてくる。このように刺戟の少いことによって、真剣さが薄くなるのは、本校の場合でも同じことで、即ち本県の教育の水準が無試験制度そのほかの原因により低くなっているのに、その中で唯一つ試験を行って生徒を募集しているのでそこに一つのプライドが生れ、程度が高いといっても低い中で高いのであることを忘れた「井の中の蛙」的な考えが起ってくる。そしてついに真剣さがなくなり勉強が面白くなくなるのである。だらだらと長いことを述べたが要するに新制度完成を機会に、今一歩熱心さを加えて勉強に精を出さなければ、高校を卒業しても一度浪人してからでなければ大学入学は不可能となるのである。この際全校生徒が、今一段の努力を心掛けるように要望する。

宿敵城西中を敗り優勝

第五回市体育祭野球の部において本校は輝く優勝をなしとげた。まず第一回戦に一宮中と対戦、打棒大いに振い14対0と大勝し、二回戦は貞広投手の好投で南海中を6対0で敗り、優勝戦には宿敵城西中と対戦優勝した。

二回四球の入交を二塁において丸岡の安打で一点、三回には西球の南を古味のツーランホーマでかえしさらに横矢の二塁打などで三点をあげ、七回にも一点をあげた。

城西中 000010000＝1
土佐中 01300010A＝5
バッテリー 土佐（貞広―西山）城西（川添…由藤）

（浅井記者）

紅一點を交えて激戰

中学生徒会選挙予想

いろ〳〵の都合で延び〳〵になっていた中学校生徒会役員選員選挙は、ついに、来る五月十四日、水曜日に行われることになった。現在の中三には、今まで生徒会の役員についた者が少いだけにかなりの激戦が予想され、また各方面からも注目をあびている。まず最も関心の深い会長の選挙を中心に予想を立てゝみることにする。

現在選挙管理委員まで届けの出ている立候補者は、会長、三C前田哲、副会長、三B棚野正士、三A武田勝、三D山岡弦二など少数の者であるが、まだまだこれから続々出そろうものと思われる。

最初に会長の有力候補をあげてみると、三Cの前田君が最も有力とみられる。前田君は、二年のとき前半期では中央委員に第二位で当選、後半期では、三年生のお歴々を尻目に、ゆう〳〵と第一位で当選して、会計長という大役を完全にやってのけたということからみても、現三年生の少い経験者の一人である。なお前田君は、しばしば特待生となった秀才である。

つづいてあげられるのは、三B棚野君である。棚野君も、前田君と共に、少い経験者の一人である。前半期には、一議員として活躍し後半期には、その手腕を買われ、ついに副議長となったつわものである。

こゝで面白いのは、議決機関の議会出身の棚野君と、執行機関の中央委員会出身の前田君の争いである。議会が勝つか、中央委員会が勝つか、両虎相うつ決戦である。この二君に戦を挑むであろうと思われるのは、二年生ながら、二度も中央委員に当選した「丸目」で有名な森本君、特待生は絶対かがしたことのない勉強組の山岡君、松崎君。議会でよく活躍をした者で有力だと思われるものをあげてみると、三年では、女子ながらよくまとまった意見のいえる三D谷岡さん、絶対まじめで信頼のある三A武田君、二年では、西山君、特待生組の浪越君、電力会社に表彰された浜口君などがある。ともかく今度は、ドングリの背比べのようなものであるから、意外な結果が得られることゝ思う。（大町）

年毎に増加する豫算總額

波亂を呼んだ本年度予算會

本年度予算は去る四月十九日より五日間にわたって、審議決定された。昨年度の迅速をモットーに行った二日間と違って、非常な長期間を要している。これは、今までの予算会と違って最初に委員会勧告案との二つの勧告を作り校長勧告案と原案とを審議することになったためとも思われるが、その他に最初に福島委員長より提出された新しい審議法案と今までの旧審議法との何れを採用するかについて討議したことが、かなりの影響を与えている。結局は、旧審議法を採用。

予算総額は年毎に増え、本年度も昨年度より十三万円を上まわって九十九万五千三百五十五円の多額にのぼっている。

昨年度文化部が体育部より二万円もうわまわるという例外を示したが、本年度は例年通り（昨年を除く）、金額は例年にない十万円もの差をつけて、文化部を圧している。これは、審議するものが、昨年度までの予算会からみると、始めあまり予算を多く取っておくと後のほうの部に予算が足りなくなるという懸念をもって、始めに審議された文化部各部に対し猛烈な攻撃を加えたゝめとみられる。なおその他に、ラジオ部廃止放送部委員会統合があったことが多少の影響をもっている。

総体的には体育部予算が多いが、結局文化部は昨年と変らず、体育各部が増加したことになっている。

全体からみて、今度の予算会は、五日間という長さからみてもかなり波乱を呼んだといえる。予算会費を認めるか否かについて討議されたり、野球部の審議は軟、硬球共に非常な時間を費やしたにもかゝわらずその決定に対し再審議の要求があり二日目にやっと決定した程である。なお三日目二十二日は、七時を過ぎる頃まで続き、小使さんより乾電池二個を借りて黒板と発言者を照らしながら行なった。

また舞踊部の出席率が悪く最後まで、出席しなかったのは、非常に批難され、女生徒の生徒会に対する関心が薄いことを示している。

部名	金額（単位円）
文化部	
図書	135,000
新聞	40,400
文芸	28,200
人文科学	16,900
英語	9,000
物理	23,500
化学	23,500
生物	18,800
美術	12,200
音楽	11,300
映画	6,000
演劇	6,000
舞踊	4,000
園芸	10,300
茶華道	25,000
体育部	
硬式野球	230,000
軟式野球	40,000
庭球	23,500
卓球	23,500
籠球	28,200
送球	39,500
蹴球	37,600
排球	8,000
水泳	18,800
相撲	10,000
其の他	
委員会	3,000
放送	28,200
用紙代	94,000
事務費	6,000
作業費	11,300
衛生費	9,500
予備費	4,755
合計	995,355

學生の自覺と再認識を

生徒はこう望む

高三・公文俊平君談

全面講和を望みたいが現状では致しかたがない。再軍備してもてさきにならないように。復古調を聞くのが悲しく、古い制度であるがこれにはみがきをかけ、新しい民主々義の理想のもとに出来たのは、よく考えられたい。

高三・笹村洋子さん談

今日からいよ〳〵独立だと思いますと今まで暗い所に閉じこめられていたのがぱっと開いた感じでした。

私たち学生は自覚再認識をし各々個性を充分発揮したい。軍備は反対です。再軍備するお金があれば社会の平和面或は財政面に向けていただきたい。

らいたい。

中三・萩野泰啓君談

全面講和はソ連衛生国が不参加のため致し方ないが、自国防衛のための再軍備は絶対に必要であると思う。学生の政治活動であるが、メーデーの乱闘は学生として、とるべき態度ではないと思う。学生は実践運動への参加よりも真理の探究にはげむべきであると思う。

アメリカだより

子供になったり學生になったり大人になったり

クレアモントにて　池田起子

ポモナ大学では、目下二学期が始まって漸く勉強に油が乗ってきた所である。私も今学期はコースの選択の点でも満足している。スチプンソン博士の心理学は、一ヶ年コースなので二学期もこれを取った。何しろ三十前後で博士号をとっているくらいであるから、その頭脳明晰さはいうまでもない。彼のクラスは五十人近い人気のあるクラスで私はこの時間には、毎時間教授と鼻をつきあわすくらいの所に席を占めることにしている。学期始めには新学期の教材の進度と期末考査を除く四回の試験の日程と、三回の読書評の提出日程とを、一目瞭然とプリントして一人々々に配るなど実に学生をしぼる点みあげたものである。昨日私はピーターブロス博士の「青年の人格」という書物の批評を提出したが、未提出の学生は教授から催促されていた。時間の終りにはいつも研究室で質問をしたり雑談をしたりして帰ってくる。スチンソン博士は私の最も尊敬してやまぬ親しい教授である。次は教育心理学はエリス博士で、御自分の著書に従って講義を進めているクラスに入ってくると、毎時間きまって神経質にカーテンをいじって、どっかと腰を下し、両手を[illegible]にあてておきまりのポーズを取る早口にしゃべりたてる。「才能別によるクラスの分もよいが、もし頭脳明晰の少年幾つかも年長の女の子達と一緒なると、誰もこんなショーツをいた弟のような少年などとは、誰に何処にも行きたがらないだろう。」といった調子の皮肉っぷりの冗談も、時にはさみなら御満足気に学生を眺めるのがこの教授の癖である。社会学は私は少しでも自分の内容を深める気持ちで単に聴講している。始の時間にたった一人で後の席に陣取っていたら、次の時間からこの席が如何にも気楽に見えて、女の子達が三人私の隣に坐り出した。中にはガールフレンドと手をとって意気揚々と入ってきて並んで席をとるボーイもいるが、たいがいは女子は女子、男子は男子同志並んでいるようである。この大学は入学試験がきびしいだけあって、生徒の質がよく上品である。男子も女子も教授の講義中よく手をあげて質問している。どの教授も競争で学生をしぼるので殆どの生徒が毎週試験にぶっつかっている。この大学で私は特別留学生としての待遇をうけ、日本のハイスクールの先生としての視野を広めることに忙しい。アセンブリーは木曜の十一時から十二時迄であるが、たいがい大学では外部からの有名な政治家小説家、芸術家達の講演である。リクリエーションクラブでは仲の良いジョイスやジョキニー達にさそわれて、バドミントンやピンポンをしたりして騒いでいる。ミステイラーは四十前後の体育の先生で明朗な親しみのもてるよい感じの先生である。寄宿舎には週に二回位会食に行くことにしている。水曜の夜のディナーは交換日（インターチェインヂ・デェイ）といって男子の学生たちが背広にネクタイであらたまって女子の寄宿舎に招かれている。食卓にはローソクをつけて女の子たちの服装などまるで花が咲いたようである。ローソクをいじっていたずらをしたり、バーズディの歌をうたったり実に可愛いらしい。ウェイターやウェイツレスも馬鹿に品のある顔をしていると思ったらみんな一時間一ドルのアルバイトをしている。この大学にはモーターギードクラブというのがある。これは成績の特にすぐれた学生で未来の社会の指導者を目指す学生のみで組織されている一種の名誉クラブである。みんな実に理智的な、そして社交的に洗練された人たちばかりである。ジューンという実に可愛い女の子が、「日本人が大体小さいのは何故か」というから小さいのではなくてその国の自然に比例しているのだ、といって彼女の背中をたゝいてやった。事実アメリカでは山は高く、木々の大きいことなど日本のとは雲泥の差である。松かさが大きいのは日本のまくわうり位のがある[illegible]は最初驚いた。この[illegible]可愛いゝもと二Dのホームルームの子供たちから私の背の低いことについてのお見舞状をもらったが、私は今度くらいこの背の低いのがアメリカにきて重宝するとは思いもよらなかった。

昔日本の神戸女学院の先生をしていたミセス スタイラーは、私をこの頃は自分の子供のようにいゝ出した。もっとも年令からいっても丁度親子であるから仕方がないが。

私のインターチェインヂ ステューデントとしての生活も実に刺戟があり楽しいが朝夕一刻も私の脳裡を離れぬのは懐しい土佐高、土佐中のみんなの顔である。素晴しい音楽会に講演会にのぞむたびにみんなの中から彼等にまけぬ政治家が科学者が小説家がそして芸術家が出て欲しいと私のクレアモントにおける夢は遠い〳〵みんなの未来の世界に迄拡がってゆかざるを得ない。

時事解説

獨立の苦悶

独立の式典が行われている間にも、再軍備問題、各地の大小規模の騒擾、駐留軍の軍事基地に関しての地元民と政府並びに軍隊との紛糾、赤旗再発行にみられる政治的真空状態、せきをきったようにほとばしりでた占領政策の批判等々一方では新しい困難な問題が続出しつゝある。破壊活動防止法案をめぐる諸問題も独立日本の苦悶の具体的なあらわれの一つであることに間違いはない。

全国新聞協会、労働組合を中心とする反対運動にも拘らず、去るメーデーの流血をきっかけに政府は無修正通過の方針に決定したかに伝えられる。従って破防法をめぐる問題は更に複雑への一途をたどることになるであろう。

「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」と憲法にある。もし破防法がかっての治安維持法的なものであって、われわれの権利に何らかの束縛を加えるものであるとすれば、われわれは断乎として、自由を守らなければならない。「…これらの権利を確保するために人間の間に政府がつくられる。政府の正当な諸権力は被治者の同意にもとづくものである。どのような政治形態もこれらの目的を害するようになる場合は、それを変更し又は廃止し、彼等の安全と幸福を実現するために……その権利を組織して新らしい政府を作ることは人民の権利である」とアメリカの独立宣言はこれを自明のことであるとしている。国民の権利が政府の権力によって冒されようとするとき、国民は自己の権利をまもることが許されている筈である。

破防法についても、これが果してわれわれの基本的人権と如何なる関係にあるかを、国民の一人一人が知らなければならない。これを知らずして、ストに反対し、政府攻撃を悪しざまにのゝしることは、わが国を再び暗黒時代にかえすことになる。

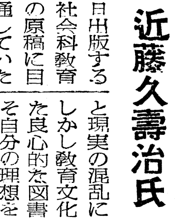
独立が契機となって考えだされた破防法についての賛否の二つの動きは、我国の将来の分岐点となるであろう。

破壊活動そのものはともかくとして、このような行動がでてくる原因を除くことができないものか、その努力が行われてきたかどうか、われわれは深く反省しなければならない。今こそ政治はわれわれのものである。

（伊賀記）

先輩訪問記 ⑧

同学社社長 近藤久壽治氏（六回生）



近日出版する『社会科教育』の原稿に目を通していた小柄の近藤さんは、仕事の手をやすめて静かに語りはじめた。

『僕は模範的な生徒ではなかったし学問でメシを食うことはできないと思った。そうかといって性質も鈍重だし新聞などにも向かず、中間的な書籍出版に志したわけです』

高知高校をへて東大独文科を卒業、出版社で三、四年間の『徒弟生活』を送ったという。昭和十四年ごろ独立して出版をはじめ戦時中の出版社統合時代をへて終戦後同学社を設立。すでに五十種近い教育図書を刊行している。

『出版をはじめた当時は資本もなく最初の出版は失敗するし、学問と現実の混乱にも悩まされた。しかし教育文化向上のため一貫した良心的な図書を刊行することこそ自分の理想を生かす道だと考えた。派手な行き方こそ出来ないがせまい分野ながら「近藤」を認められるまでやるつもりです。』

キリッと結んだ小さいくちびるがなにかきびしいものを感じさせる社員五名、土佐中第十六回生の島内淳氏が編集長。『同窓生の研究なども出版したい』とのことだが作曲家平井康三郎氏（保喜氏改め）＝第五回生＝の著書も刊行されている。

『今年は、東大などの入試成績が予想以上に悪かったんですが……』と話をむけると、ちょっとムズかしい顔をして『進学成績の良いということは開校以来の伝統だったからね。なにしろ近ごろは受験技術が進んできたからこの方面を大いに研究してもらいたい。土佐中教育は受験だけでなく理想主義的なところがあった。個性を生かして好きな道へ進んでもらいたい。多彩な後輩を期待しますよ』

同窓会東京支部の仕事も世話ずきで始めたわけではないという。桧垣という当時の一高生が土佐中問題についていろいろと訴えてきた。その情熱に感激してそれまで平凡だった同窓会支部に力を入れはじめたということだ。同学社は今や本校出身生のオアシスとなっている。『将来は東京地方に「土佐中会館」を作って出身生に便利を与えたい。』――これが同窓会『万年幹事』の願いであるといっている。（東京支局・岩谷記者）

係より＝本欄は訪問のできる先輩より順次掲載、失礼ながら卒業順ではありません。

卒業生へ急告

第四回卒業記念アルバムの一人当り代金は一、三三五円です。すでに一、五〇〇円を学校側へ払込んだ方には今夏一六五円を委員から払戻します。融資金を出してなかった方（委員より通知した筈）は至急事務所の西山先生へアルバム代金を納めて下さい。連絡困難のため同僚にも伝達願います。アルバム（及び超過金）は今夏届ける予定、その節は御協力を願います。

責任者 岩谷清水
（高知市常盤町九五）

新刊

音楽教室『作曲指導』（平井康三郎著）むずかしい作曲の技術と指導法が作曲界の権威である著者（へ土佐中出身）によってきわめてわかりやすく書かれた本。定価二〇〇円。東京都文京区茗荷谷町一五『同学社』発行。本紙名を記入して申し込めば送料不要。

落書

▽…校内放送がいつか沈黙してしまった。わずかに集会のときに利用しているにすぎない。昭和二十五年在校生一同の百円ずつの拠金によって県下一という豪華な放送機械が出来上った。同時に放送規則が制定され、これに従って低調とはいゝながら去年の一、二学期頃までは続いてきた。それが今では定期放送は全くなく従前のごとく部の伝達までが黒板に書かれたり、時間中に小使いさんが紙をもって回ったりという工合になってしまった。原因はいろ〳〵あろう。放送による伝達が極めて不徹底であること、機械が故障しやすかったこと、あるいは蟻川君、岡崎さん、尾崎君と順次三人のアナウンサーが去り、その上に技術担当の斎藤君が後任者養成の暇もなく転校していったこともあろうか。本学期に入って福島委員長は校内放送復活の為に尽力することを表明しているし、技術者も新たに選任し教室毎のスウィッチの切り換えを実施し、夏休みには機械の製作者の竹本さんが徹底的な機械の改良に乗りだすはずであるから名実共に県下一の放送ができるようになる日も近いことだろう。しかし一時的にもせよ宝をもちぐされの状態においたことは、最近二つの苦い経験とあわせて、われ〳〵の深く反省しなければならない一事ではないだろうか。

學生さん大歡迎
ペンなら
おなじみの
白亞堂
新型製品續々入荷
帯屋町東宝劇場前
TEL 2743

初夏の裝いは
いつも
新しい柄
變つた柄の
服地の ※コメシゲ

新學年のはじめに良い参考書をお選び下さい
高校生用―
国語・英語・解析一及び二・代数
幾何・微分・積分・物理・化学
生物・世界史・人文地理
中学生用―
国語・英語・数学・理科・社会科
各辞典・事典参考書
（但し虎の巻は取扱いいたしません）

新刊
書籍
雑誌
南明社書店
はりまや橋より北一丁東側

家族中て手輕に
親しめる教養書
岩波文庫・岩波少年文庫
岩波新書・岩波寫眞文庫
新潮文庫・アテネ文庫
角川文庫・市民文庫
創元文庫・三笠文庫
音樂文庫・くせじゆ文庫

随想

西野友彦

――愛の一面――

昔のこと、級友のKY君が、「愛は知ることだ。」と言った。愛の一面を言い得た言葉だと思う。愛するというからには何等かの意味で相手を知らなければならない。知らない者に対しては本当の愛情は起らない。これを別のわかり易い例で言ってみれば、ラジオや蓄音機から流れてくるメロディーを聞いても、知っている歌や曲だと何遍聞いても面白い。それが全く知らない歌や交響楽だとちっとも面白くない。むしろ騒々しいとさえ感ずる。知らないから愛情が湧かない、と考えられないだろうか。嫌いだと思ってスイッチを切っていたヴギやジャズや、或は清元、常盤津などでも覚えてみればやはり好きになれる。知ることによって愛情が生れたと見られよう。

さて、愛といっても色々あるわけだが、今教育の世界における愛情について反省してみるに、私達は往々にして勉強しない生徒、いうことをきかない生徒、悪いことをする生徒を嫌ったり憎んだりすることがある。そのため時にはつれない仕打ちをすることさえある。併しそんな生徒でも個人的に親しくつき合ってみれば、みんな可愛い生徒であることに気がつく。嫌ったり憎んだりしたのは、それらの生徒をよく知らなかった為に愛情を持ち得なかった所為である。

抑々生徒を愛しない所に本当の教育はあり得ない。というのは教育の教、「教ふ」という言葉は旧仮名遣では「をしふ」である。「をしふ」の「をし」というのは「かわいゝ」という意味の古語である。有名な万葉集の大和三山の歌に、「香具山は畝火を愛（を）しと耳梨と相諍ひき云々」（巻一、一三、中大兄皇子御歌）とあるのでも知られる。つまり教えるとは「をし」と思って導くという意味である。従って「教育の根本は愛であり、愛の源は知ることである。」と言えるわけである。先ず相手をよく知ること、これが教育の第一歩であるといわなければならない。

――受信機――

▼△…受信機…▽▲

これも昔のこと、工学博士で熱心なクリスチャンだった佐藤定吉氏の話にこんな言葉のあったことを憶い出す。「神の声は恰もラジオの電波の如く宇宙に充ち満ちている。神を認めるか否かはこれを感受する受信機を持っているか否かによるものである。」と。生憎私は神の声を聞き得る受信機を持ちあわせていないが、この比喩は神の声を感受する受信機に限ることはない。これを学問のほうに当てはめたらどんなものだろう。各人は各様の受信機を持っている。オールウェイヴ、スーパー級から手製の鉱石セットに至るまで様々の受信機がある訳だ。或ものは国語の電波はよく入るが、数学の電波はさっぱり入らない、或ものはその反対といった具合や、或は折角電波は入っても雑音が多かったり、音が低かったり、分離が不十分で他の放送が絶えず邪魔をしたりといったこともあるだろう。それには夫々の理由があるだろう。

民間放送の入る受信機を持たぬ私は先日の本校対八尾高校の野球戦を姉の家に聞きに行った。所が生憎とN・J・Bの放送が入らない。アースをつければ入るのだそうだが、ふだん必要がないので附けないまゝだということだ。優秀な受信機でも一寸した設備を怠れば入るべき電波も入らないで三球程度の普通受信機と大して択ぶ所がない。受信機が最初から優秀でないのは致し方がないとしても、優秀な受信機を十分活用しないのは考えるべきことである。手入れをよくしたり、アンテナやアースを附けたり、ダイヤルをこまめに回したりして出来るだけ広範囲の電波を出来るだけ明瞭にキャッチしてこそ優秀な受信機を持った甲斐があるというものだ。宝の持ち腐りにするのは勿体ない話、お互に心すべきことである。

新入生を囲んで座談会

本校女生徒は不活潑

鼻息荒い新入生

年をおって本校志願者は増加の一途をたどっているが、今年度は特に中学、高校共に競争がはげしかった。四月十一日入学式終了後、希望に満ち溢れる新入生を招いて入学の感想など聞いた。

部長「皆さん御入学お目出度うございます。先生方には、おいそがしいところをおいで下さって、どうも有難うございます。これから入学試験のことゝか、入学後のことなどについて、お話をうかがいたいと思いますので、どうかざっくばらんに御遠慮なくお話し願いたいと思います。では、始めて頂きましょう。」

司会「まず合格の御感想をお願いします。」

鳥居「別にありません。」

石津「合格のときに嬉しかったが、これから頑張らなくてはいけないと思う。問題集をやっていたので試験はやさしかった。」

野並「合格のときは嬉しかったが今後が不安です。」

入江「嬉しいが一生懸命やらなければ、と思う。附属から来たという誇りを持っているからよけいにその必要性を感じます。」

小野寺「数学が多少失敗したが、六時頃起きて新聞を見て安心した。」

小松「仲々早起きだね。」

北村「少し上っていたが試問はわりあい易しかった。」

利岡「これから一生懸命にやりたい。」

久保地「やっと入りましたが、新聞に出て皆に知られているのでビリになって笑われては心配です。」

梶「落第した人が気の毒だった。」

杉原「試験のとき最初の問題が失敗して頭が痛くなったがどうやら合格した。」

司会「今年の成績を去年と比較してどうですか、先生方に―。」

河野「競争がはげしくて昨年よりいゝ生徒が入っている。粒ぞろいだね。」

小松「率からいうといゝ生徒が入っていると考えるが、二日目の問題はむつかしかったからそれを通ってきた人の顔を見ても相当な人達だ。」

河野「面接が本当の学力だかわからないが、まあいゝほうだね。高校のほうはこれから本校の中学からきた者と競争するのだが、どういう結果になるか興味がある。」

中沢「今年始めて試験官になったが、昨年に比べて志願者が多かったので、優秀でないものもぐり込むすきがなかったと思う。（小松先生に向って）国語の問題なんか相当むづかしかったですねえ。」

都築「昨年と比べるのはむづかしいと思うが（間）結局現われた成績によると大体において、最高最低の差が少ないと思う。」

司会「入学の動機といったようなものを。」

小松（菓子を進めて）「食べなさい、金は要らんから（笑）。」

小野寺「城東は私立で高校があるからと先生方にとめられて一時まよったが、本校の程度が高いので、特に数学などは、それで大学の入試にいゝだろうと思って。」

入江「始めはくる気はしなかったがまわりの友や両親におされてきた。大学へ行くのだったらいゝと思って。」

野波「中学校のとき機会を失ったので普通校ではものたりないと思ってきた。」

石津「この学校が進んでいると聞いて上の学校へ上るのに有利だと思ってきた。始めは普通校へ行くつもりだったが、試験のあるのとないのとでは生徒の上下の差が違うと思って、普通校では出来ぬものがあるので進まない。」

杉原「両親がすゝめてくれた。また土佐中は程度が高いと思って。」

司会「何時頃から本校へ入る計画をたてたか。」

梶「四年のときから少しやってていたが六年の三学期に入って一生懸命やった。」

久保地「先生にいゝとすゝめられてきたが、三学期の二月の二十五、六日の二学期から本格的に準備した。」

司会「何か特別な勉強法をとられましたか。」

利岡「別にありません。」

北村「十月に入ると決心、二月末に勉強。それまで学校で受験勉強をやっていた。」

司会「先生方に今度の試験での珍解答というようなものを御披露願いたいと思います。」

都築「本人は解っているがやはり上っているのだね。太陽が真西から出て真東に入ったりする。それから一人非常にふるえるのがいた。とめてやりたくてもどうしてもとまらない。実に気の毒だった（笑）。」

久保地「僕は声が大きいので五、六回以上先生に大きい〳〵と止められた。やはり生れつきで直らない（笑）。」

小松「先生の失敗も面白かろう。春分を五月五日と間違えてる。」ね。五月五日――じゃないですね。とやった（笑）。」

中沢「やさしい問題でも皆上っているものだから。例えば眼の伝染病がコレラだとかチフスだとか（笑）。」

司会「問題がやさしかったかしらないが、まだ試験の日に片岡先生に僕等の教室はどこですか。と聞いたのがいたそうだ。」

中沢「試問としてはやさしい」

河野「学課にわたるむずかしい問題は出せないからやさしくなる。」

野波「遠いのでわからない。」

司会「高校の問題は。」

河野「高一がむつかしかった」

中沢「安岡先生は校長先生にやさしすぎるといわれてあわてゝ作り直したそうです。」

都築「市内の先生はやさしいといゝ、郡部ではむつかしいという。」

司会「小学校で習わないような問題はありましたか。」

久保地「僕等勉強しなくてもわかっているのばかりだった。」

河野「前に検討してあるからない。高校のほうで数学には0点があった。」

鳥居「英作がむつかしかった」

小野寺「英語は教科書通り出たのでやさしかった。」

入江「私等は本が違っている」

小松「僕はそんなにならないよう問題集とか教科書にあるのをさけた。」

司会「本校の生徒を入学前にはどう感じたか。」

小野寺「お坊ちゃんが多く不良が少いと聞いていたが汽車通生の態度などはあんなのが土佐にもいるのかなあと思った。言葉遣いも汽車通はよくない。」（汽車通の部長頭をかく）

入江「附属のときは他よりよかったが高校がないので普通校へゆくとこのプライドが消えていやだと思って土佐へきたが土佐にはいゝ友がいるだろうと思っている。」

石津「授業中の態度がよくないと聞いた。町などで見かけるとあれも土佐中かなあ、と思う。」

鳥居「試験のあることによってプライドをもっているように見え圧倒された。」

利岡「映画館の中などでは土佐中の生徒がいゝ。」

梶「小学校のとき礼儀がやかましかったので土佐の生徒は礼儀がよくない。」

杉原「まじめで口かずが少いと思う、ただしこれは私達の学校の卒業生でこの学校へきている人ですけど。」

入江「女子が少なく非常に男生徒に圧倒されているときいて私達の学校は女子の方が中心になっていたのでちょっと変に思った。」

司会「それでは大いに活躍をお願いします。鳥居君今後野球をやられますか。」

鳥居「やりたいと思う。」

司会「スポーツと勉強を両立させるのに何か考えていられますか。」

鳥居「別に考えてない。」

司会「他のほうは何か部活動をやりたいと思いますか。」

石津「事情がわからないで当分部へ入らず学業に専心したい。」

杉原「前は生物、英語に入っていた。」

野波「別に入りたくはない。」

入江「ピアノをつづけたいと思っている。」

小野寺「新聞部だったのでそれをやりたいが勉強が心配だからまだ部へ入る所まで行っていない。」

河野「（お客様のため退場されるその前に）新入生にも在校生にも言うが、本校生の中にも本校の名誉を傷つけるものがいるので新入生は今の新しい気分を捨てずに悪い生徒を見習わないよう張切ってやってもらいたい、今までいる生徒はずる〳〵に進学したので新しい気分になれないが、変ったのはキショウの中の「中」が「高」になっただけの話だから何とかして気分を一新して今までのだせいを切り離して大いに頑張ってもらいたい（退場）。」

司会「大学へ皆進学すると思うがその対策はどうかまづ今年東大が不成績だったが学校側としての対策は何か。」

小松「今年悪かったのは教え方がたるんだわけではないからやりなおす気はないが真面目にやることだ。」

都築「その問題については都会の生徒たとえば日比谷高の生徒がどうしてやっているかを知らなければならない、先生に教えてもらうより自分自身がやる。日比谷も先生より生徒がやっている。」

司会「それでは新入生のほうは。」

石津「別に方針はないが、無計画にならないようにやりたい。」

鳥居「ただ大いにやりたい。」

小野寺「一年のときは英語、数学等は一生懸命やり、二年になってからは具体的な計画をたてゝやりたい。」

野波「中学では、ルーズだったが今度からはよく計画をたてゝ遂行してゆきたい。」

司会「最後に先生方に新入生への言葉をどうぞ。」

小松「勉強の計画性と関連するが勉強中心で、他の趣味は勉強という軸の周りで回転さすようにして、実をいうと皆勉強は嫌いだから努力して好きにならなくてはいけない。マラソンのように初めは苦しい、中程で汗が出ると楽になる。しまいは又苦しくなるが、最初の苦しさと後の苦しさとは違って、苦しみが楽しみになる。僕は勉強で好きとはいわぬが寝る時、道を歩くときなど、本がないとさみしい、そういう所までやれば行ける。苦しいがやりたまえ。」

都築「私の考えていることは土佐中、高にはよい生徒もいるがよくない者もいる。それは能力の関係もあるが、入学当時の感激と決意を持ち続けることが出来ないからだ。入学当時の感激を持ち続けることを忘れないことだ。」

中沢「参考書より教科書のほうをマスターしたほうがいゝ。」

部長「では、新入生の皆さんは今の決意と感激を忘れないようにしっかりやって下さい。特に女生徒は男生徒に圧倒されているそうですから大いに活躍を期待します。長い間どうもありがとうございました。」

【出席者】

先生側
河野先生
小松先生
都築先生
中沢先生

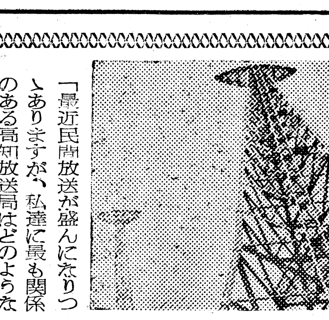
新入生側
高一　石津純一（附中出身）
〃　小野寺幹夫（城東中〃）
〃　鳥居芳毅（城西中〃）
〃　野波静雄（佐川中〃）
〃　入江久（附中〃）
中一　北村潔（大篠小出身）
〃　利岡洋（野田小〃）
〃　久保地理介（蓮池小〃）
〃　梶真智子（第六小〃）
〃　杉原道子（旭小〃）

本紙側
大町、浅井、大原、原、横山

希望探訪

二十歳になつたRK

第二スタジオも新設



「最近民間放送が盛んになりつゝありますが、私達に最も関係のある高知放送局はどのような仕事をしているのかお知らせ下さい」（高二S・O）

JORK、高知放送です。今晩のお天気は……。

このきゝなれた放送はどのようにして私達の耳に入るのだろうか。

記者達は、横なぐりの雨の激しい廿日の日曜日に、愛宕山の下、相模町にある高知放送局をたずねた。丁度第二スタジオの落成式を明日にひかえたことゝて、局内はペンキの塗りかえに急がしかったが、この日の担当RK最古参の原アナウンサーが局内を案内して下さった。中央を通ずる廊下の右側から、「ではこちらへ。」と、出てこられすぐ廊下をへだてた向い側のスタヂオへ案内される。第一スタヂオのほうで眼鏡をかけたおぢさんが、どこかの盆踊りみたいなかっこうをして身体を動かしていたのが見えたのでよく見ると、女性コーラスの人が朝九時十五分の放送をすまして今まで練習しているとのこと、御苦労なことである。

丁度二時のスポットアナウンスを入れるとのことで第二スタヂオの中へ入る。中は部厚いとびらと、二重窓と、ほんとはコルクを入れなければならないが事務室を改造したゝめ煉瓦をいれた部厚い壁にさえぎられた室で防音装置になっているが、かすかに金づちの音が聞えてくる。広さは六坪ぐらいでマイクとラジオ受信機の親玉のようなのをのせた机と、レコードプレイヤーが置いてある。あたりをきょろ〳〵見まわしているうちに原アナウンサーのほうはスポットアナウンスの準備を始める。れいの受信機の親玉についているスウィッチで、あとから行った主調整室に信号を送る。

原アナの持っている標準時計が二時一分前をさすと受信機の赤いランプに灯がともる。これで放送準備OK。スポットアナウンスの開始である。

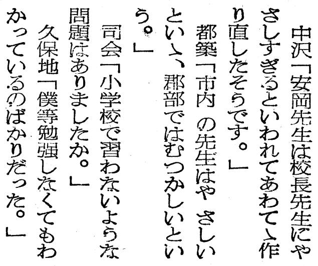
あらかじめどんな小さい音でも入るからといわれていたので、身動きもせずにじっとしている。その間約二十秒ぐらいであるが、その息苦しかったこと、終ったときは先生のお説教から解放されたときみたいにほっとして顔を見合わしたものであった。放送が終った。原アナウンサーは、私達に向って説明された。

「こゝが第二スタヂオで、ニュースや対談などをやるのです。このガラス戸越しに見える第一スタヂオでは、大人数を要するNHKの劇や音楽等をやります。放送が皆さんの耳に入るのは東京から電話線を通って、大阪、徳島、高知電話局、高知放送局へと送られてくるのですこの電話線はNHKが国家から借りているのでして、国家にとっては年数億円の収益になるのですから良い電話線を使ってくれたら良いのですが、高知、徳島間の電話線は、全国でも指折りの悪い線、C級線を使用しています。ですから皆さんがお聞きになっても、高知放送局からの放送と、中央の放送との音質が違うのが、おわかりになるでしょう。」と、こゝで商売敵？の民間放送に話題が移り、民間放送が出来てからはどの放送も聴取者に愛される番組を組みだしたゝめ、一般に聴取率がぐんと高まってきました。民間放送のアナウンサーが下手だとかいわれますが、あちらにはやはり民間放送としての特色が入っています。例えばNHKは公共放送なので、商品の固有の名前がいえません。女子の方が知っていると便利かもしれませんが、主婦日記の中で調味料というの[illegible]「味の素」のことですよ、野球放送の場合でも球が外野のへいにてん〳〵としていると、そのへんのへいの広告の名をいゝそうになったりして困ります。」といわれた。こゝで第二スタヂオを出て主調整室へ行く。大きな機械が沢山並んでいて赤や青の灯がその上に灯っている。係の方がいろ〳〵説明して下さったがむつかしくてあまりよくわからなかった。ただ無線中継のやり方とスタヂオとの連絡の方法がわかっただけだった。こゝまで見ると早いものでもう三時近くになっていた。また第二スタヂオへ行きスポットアナウンスを聞いて、さておいとましょうとすると、テープレコーダーの実験をするといってポータブルみたいな機械をもちだしてきたのでまた腰をすえて見物し始めた。機械を操作していると映画のフィルムみたいなテープがグル〳〵動き初めたので見つめていると大きな声で「原氏ヨー」と原アナウンサーをよんだ。

その時は何も気にかけずにいたが、そのテープがもう一度機械にかけられて「原氏ヨー。」の声が飛び出した時には全員顔を見合わした。原アナウンサーに仕事について嬉しいことゝつらいことはございませんかとたずねると「朝五時半より昼三時、昼三時より晩七時、晩七時より翌朝までと普通の会社とは勤務時間が違いますので、身体に無理がいき皆慢性睡眠不足にかゝっています。しかし仕事々々に責任があり自分にまかされてやるので張り合があります。」といわれた。

こゝで「もうそろ〳〵帰らないと、いくらなんでも厚かましすぎる。」と原アナウンサーにおわかれをして、雨の上った空に五十五メートルのアンテナのそびえる高知放送局とおわかれをした。西の空には雨上りの太陽が沈みかゝっていた。

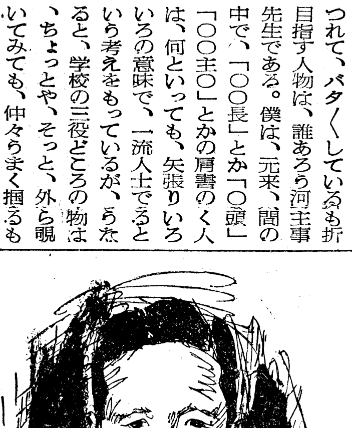
職員室



おそるおそる見参

――河野先生に――

松浦　勲



大体新聞部がだれもつれてたようだ。急な都合で、今日中書きあげて、明日提出せよという。こちらが、いゝ加減、もつれ、もつれて、バタ〳〵しているも折、目指す人物は、誰あろう河主事先生である。僕は、元来、間の中で、「○○長」とか「○頭」「○○主○」とかの肩書のつく人は、何といっても、矢張りいろいろの意味で、一流人士であるという考えをもっているが、うたると、学校の三役どころの物は、ちょっとや、そっと、外ら覗いてみても、仲々うまく掴るものではあるまいと思う。唯割合古くから、先生の御指導を仔、また先般、先生のものされ文中に現われた、小生の所謂馬舎的陋屋が、先生の御住居に殊近く位置させて頂いている関係、朝夕の先生の御姿など、うかがうチャンスに恵まれているとい地の利を得て、昔からのエピソードの二三をならべて、責を果したいと考える。

生徒諸君も御承知のように、毎年入学式の際、先生は中学主事として、〝入学心得〟と題して、一場の訓辞をされる。大学総長などという人は、平生の研鑽を温存、凝集、推敲して、その辞をもって、入学、卒業の式に、学生に向って言葉を与えると聞くが、先生の場合、正にそうであるように思われる。先生の御話しは、単なる事務的手続に就てよりも、新しい生活環境に胸をふくらませている純真な魂の奥底に、学ぶものとしての覚悟を、しっかりと、根を張らせようとしているかのようである。我々若輩が、成程と感じたのは再三再四に止まらない。また学校行事の具体的計劃などは、必ず先生の原案になるプリントが配布される。こんなところは、結局先生の深い人間性の探究、視野の広い、おゝらかなる人生観照、緻密なる計画性の渾然融合したものゝあらわれと思う。ところが、先生には我々下端の者共が見て、仲々微笑ましい一面がある。

先生が、何か思い違いをしていて手抜かりのあることなど、口に出されて、俊敏軽妙の小松先生などの連中が、大変明朗、且つ無邪気に、揚足をとることがある。そうすると、一寸困った顔で、考えて居られて、「成程ネ、そうだね。」といって、天井を仰いで「フハッ〳〵」と呵々大笑されるのである。そこで、一座の面々が、その笑いにつられて、「ハッ〳〵」ともらい笑いをする。その後は、満座が和やかな、春風駘蕩の空気に包まれる。こんな素晴らしい笑い方は、ちょっと誰にでも出来るわけのものではない。

また二度三度のいたましい擦過傷などの試錬を経て、最近「片手を離しても大丈夫だよ」という程度に、メキ〳〵上達されている自転車上の、おぼつかなげな、しかも颯爽たる先生の登校姿も、初夏の鏡川の川風をきる、微笑ましい風景であろう。新品の自転車を撫しながら「これを盗られたら、もう家内は買ってやらないというんだ。」といって、例のフハッ〳〵〳〵と笑った、先生の顔付には、まるで、優しい奥さんに、そういわれたのを嬉しがっているような楽しさが、溢れていた。

お子供がなくて、草花を愛し、仔犬を飼う、静かな生活をして居られるが、この三日の休みを利用して、先生の御郷里へ御夫妻で帰って居られるそうである。この駄文の対象となって、今頃は、安芸郡野根山の山奥でクシャミをされていることであろう。しかし、小生が御近付になって以来、先生が誰にでも未だ大声で怒声を発せられたことを聞いたことがないので、今度も、僕も怒鳴られることはあるまい。

事務室の小母さんに、先生評を聞くと、「いゝ方ですね。何といゝ表わしてよいか、ちょっとむつかしいですね。」という。そして「まず本当に立派な意味のおゝらかなお殿様というところでしょう」とつけ加えた。何しろ、こういう大物にぶっつかったのが結局、僕の不運というべきであろう。

人文科学研究部生る

社会科学研究部は新しく生れかわって、人文科学研究部として新学期と共に再出発した。特に一般生徒に対しての講義も開くのだが、内容はつぎの通りである。

一、社会思想史（町田先生）
二、聖書研究（町田先生）
三、英国思想（織谷先生）
四、倫理道徳を中心とする国民思想（小松先生）
五、日本史研究（古谷先生）

カッコの中は講師の先生であるが各自のもっとも得意とする所を発揮して、学問への自由な道を開こうとはりきっていられる。各講義は一週に一度ぐらいづつ先生生徒共になごやかに行われる予定。

代表者として公文俊平君に、部会中だったが今後のプランをおたずねすると、「本校生徒の勉学研究範囲を拡大し、在学中から将来の希望を実現するような書物による学問、討論による各自の意見の交換に楽しく研究して行きたい」と自信たっぷり。

部員の数も高一、中二を中堅に、相当数にのぼっている。とはせよ華々しい再出発として注目されている。

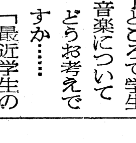
授業料百％

授業料納入日に授業料をおさめず事務の方に迷惑をかけている人が多いとき、最近納入日一〇〇％完納を続けている組がある。0ホーム（片岡先生主任）がそれで、新学期と共にクラスは変ったが、いぜん一〇〇％完納を続けている。一〇〇％完納となると、やはり数々の苦心がはらわれ、欠席の者はお母さんが届けたり、友達にことづけたり、また片岡先生がたてかえたりしたとのことである。やはり出席者のみの一〇〇％完納はむつかしいが、五〇％、六〇％の納入成績をあげている組があるなかで、一〇〇％完納とは立派なことである。

學生音樂についてバリトン歌手にきく

良い指導者を

下八川圭祐氏



現代日本楽壇の巨星バス、バリトンの下八川圭祐氏、メゾ、ソプラノ川崎静子氏、さらにはピアノ梶原完氏を加えたベストスリーの一行は本県を訪れ、各地で演奏会を開き、音楽ファンを感激させた。鏡川畔の旅館に御多忙のところを訪問。学生音楽等について、いろいろお話をうかがった。

―今日はおいそがしいところをどうも……

「いやー、お待遠さま、土佐中というと今でも秀才ばかりが行く所ですか。」（少々たじろぐ）

―ところで学生音楽についてどうお考えですか……

「最近学生の音楽や演劇が盛んになって来ていますが、演劇はともかく音楽の方はどうしても本格的な基礎勉強をしっかり築いてやらなければ結局ゆきずまりを生ずるようになります。だから良い指導者が絶対必要で指導者さえ良ければ地方でも学生音楽は立派に進歩します。」

―どんな歌がお好きですか。

「好きなものと得意なものと別ですが、ステージではやはり私に適したオペラを歌います。人に聞かせるものではなく自分だけで歌って楽しむものは、むしろシューベルト、シューマン、ブラームスのようなものが好きです。」

―流行歌についてのお考えを……

「流行歌もときに聞けばいゝものもありますが、中には聞くに耐えないようなメロディーや歌詞のものがあります。そんなものを聞いているとたいへん不愉快な、いたゝまれない気持になります。これなんかももっと品位をもたせて進歩させる必要があります。そうなればあながち全部が軽蔑すべきでもなくなるでしょう。せめてフランスのシャンソンぐらいになればステージで歌って紹介し高めて行ってもいゝと思っています。だが現在のところ不健全な感じのものが多いからいろいろ問題にされるんじゃないでしょうか。」

―ところで御苦心をお聞かせ下さい。

「苦心はいつもしているのですが、新しいオペラをやる前などは大変苦心します。いつも練習しているオペラの楽符を枕もとにおいてねます。夢を見ないで休むことはありません。丁度私にとっては毎日が君達の試験勉強のようなものですよ。」（これだけになられたのも、この芸術に対する熱情と絶え間ない努力の結実であろう。）

「それからオペラに出演したりするには若さを失わないことが大切です。もっとも音楽に全力をうちこんでいるといつも青年の気持でいられますがね。」

―御郷里の黒岩村の方へは最近いらっしゃいましたか。

「えゝ、昨年十二月の大阪公演の帰り行きました。近くである時は必ず高知へ帰って誰に挨拶に行くよりも先に祖父や父の位牌をおがみます。」（としみじみ語られる）

―最近の学生達について……

「非常に明るくなりましたね。少し行きすぎた所が無きにしもあらずで、ときには昔の教育がいゝと思うこともありますが、卑屈な所がなくなり、のびのびとして来たのはいゝ傾向ですね。」

―先般、木下順二の「夕鶴」に、壇伊玖磨の作曲で日本初のオペラが出来ましたがそれについて……

「日本の作としては大変いゝですね。日本調で変化に乏しく、見ていて退屈な所がないでもありませんでしたが、人物のあつかいが少いので複雑にならず、また心理描写の点も巧みにできています。なかなか立派なものです。」

―故郷の高知の御感想を……

「帰る度毎に復興が目立っていますね。それから昔は高知へくると日ざしが強いせいか女の人の服装も原色が多くて単調だったが、このごろは中間色を使って理知的な感じになってきましたね。日曜市などは、懐しいものです。」

教室に飾られた地圖

森下先生の御苦心

最近教室へ一歩入ると、美しい地図のかゝっていることに気がつく。これは、森下先生が、私達が社会科理解に必要な地理の知識の低いのを心配せられ、三ヶ月の月日を費して作られたもの。寝食を忘れて私たちの為に地図を作って下さった先生の御苦心に対して、深く感謝の意を表しよう。

皆様の
新入学と進級を祝す
高知市大橋通
追手前小学校西門前
文具店
ミッキー

毎度有難う御座います
万年筆
ボールペン
シャープペンシル
ルーズリーフ
彫刻刀
外学用品一切
品は最高！
値は最低！
土佐中、高校の店
ユウキ文具店

學生帽登山帽の御用は
帯連加盟店
大宮帽子店
帯屋町一丁目北側

日本一の
フタバヤ
ラケット
山の用品
アラキ
京町

参考書と辞典類は
土佐高校中学指定店の弊店で！
明文堂
堺町（四銀隣）
TEL　二九五

運動靴各種取揃え
標準店
篠原履物店
セントラル前

男女学生服は是非
坂本學生服専門店へ
帯屋町一丁（大丸横）

The Pen is mightier than the sword.
賞品用
記念用
贈答用
万年筆
ペンシル
在庫豊富
植田十字堂
帯屋町三丁目大橋通り角
TEL　一四〇〇